

貨物鉄産労青年部第31回中央委員会開催



11月28日、愛知県稲沢市内において貨物鉄産労青年部第31回中央委員会が開催され、今後の活動方針が満場一致で承認されました。

当日は、コロナ感染対策を万全にし、リモートでの参加も含め全国から青年部員が集まり、議長に東海地区本部石塚委員を選出し、委員会を代表して挨拶に立った鈴木青年部長は、「日頃より青年部活動にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。コロナが収束しているように見えるが、まだまだ油断は禁物であり、感染予防は今後もしっかりと行ってほしい。一つ間違えれば重大労災につながる

る労災が度々発生しており、輸送障害が起きやすい冬季に入るが、安全安定輸送に努めて頂きたい。組織課題については、言うまでもないが青年部の仲間が意識を持って取り組んでいかなければならない。今後もJR連合と共にあらゆる課題を解決していくよう取り組んでいくためご協力をお願いしたい」と述べられ、来賓のJR連合青年女性委員会三浦事務長からは「JR連合青年女性委員会の活動は横の繋がりを大切にしており、常に、『明るく・楽しく・元気よく』を合言葉に活動している。12月よりユースラリー実行委員会を立ち上げるが、積極的な参画をお願いしたい。コロナの影響でJR各社は大変厳しい状況であり、何としてもこの状況を打破していき、引き続きJR連合青年女性委員会の諸活動にご理解ご協力をよろしくをお願いしたい」と述べられました。続いて、本部辻村書記長からは、JR貨物の現状・評価制度・年末手当結果・2022春闘・政策課題・政治対策・安全課題等について説明があり、質疑応答では、年末手当結果・労働条件の向上・評価制度・女性の働く環境改善・組織課題等が出され、女性が働く環境改善については待ったなしの問題であり、早期に取り組んでいくこととしました。役員改選後、委員会宣言案を読み上げ、最後に鈴木青年部長による「団結ガンバロー」で閉会しました。



鈴木青年部長



石塚議長

**JR社員のみならず、
JRグループ会社の社員、
退職後も利用できる、開かれた共済。**

病気、交通事故、火災、地震・・・など、
偶発の事故に備えて仲間(組合員)が掛金を出し合い、
いざという時に助け合うのが共済です。
集められた掛金は、共済金等の支払と事業運営に充てられ、
剰余となる部分は、割戻金として組合員の皆さまに還元しています。



交通共済

みんなで暮らしをガード
交通共済 (JR職域生協)



全国交通運輸労働者の職業生活保障組合

